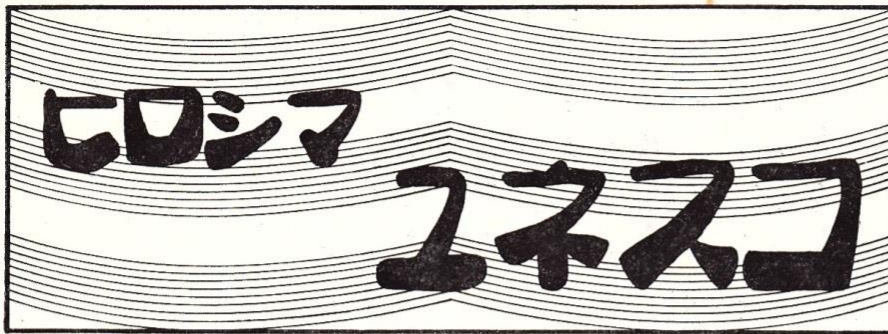


### ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



# 会の飛躍的發展を期待

## 米国のボランティア活動に学ぼう

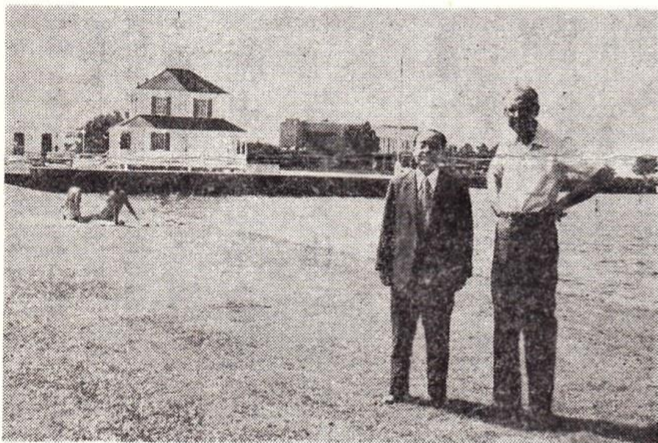
広島ユネスコ協会会長 永井滋郎

昨年七月十一日から十月十二日までの三か月間、国際理解教育日米共同研究事業の線で、アメリカ合衆国の視察・研究のため、文部省から派遣されていました。留守中、顧問の内海巖先生はじめ、協会のみなさまにご迷惑をおかけし、またお世話になったことに対し、お詫びいたしますとともに、厚くお礼申し上げます。

このたびの滞米中、とくに印象づけられましたことの一つは合衆国では、国際交流面で、民間のボランティア活動が盛んであることでした。いわゆる狭い意味でのユネスコ活動は、日本やフランスなどに比べ、活発ではありませんが、広い意味でのユネスコ(国際理解・国際協力的国際交流活動は、各種の民間団体によって、積極的に推進されているのであります。私たち(国際理解教育専門家六名)も今回、ワシントン、ニューヨーク、ニューオーリンズ、エル

・パソ、ロスマンゼルスなど、各地の国際交流民間団体のお世話になりました。これらの団体では、ボランティアによる外国人受け入れ体制がよく整っており、かゆいところに手の届くような世話がなされています。私たちユネスコ協会も、このような国際交流のボランティア

による実際の活動に学ばねばならないと思います。また、外国人来訪者だけでなく、広島市在住の外国のかたがた、とくに、留学生のみなさんとの友好を深め、私たちの身近かなところから、国際理解・国際交流・国際協力活動を展開していくことが大切でしょう。日本人は、とかく狭い自分たちだけの殻に閉じこもる傾向をもっているといわれます。したがって、ユネスコ活動も、私たち日本人だけの外国人不在の活動にならないよう気をつけねばなりません。



ニューオーリンズのボランティア・フリック氏(右)と筆者。

本年は、ユネスコ創設三十周年、日本のユネスコ加盟二十五周年という記念すべき年です。この年にあたり、わが広島ユネスコ協会も、この機会に、全国的な活動の盛りあがり、全国から注目されています。この期待にこたえるべく、わが協会の五十一年度における発展を重ねて希望する次第です

ユネスコ協会の飛躍的發展を望みたいものです。まず、協会の力量を高めていく必要があります。そのためには、次のような方策が考えられます。

- (1) 維持会員の獲得・増大による財政的基盤の確立。
- (2) 会員の増増。
- (3) 全会員にとって魅力ある活動の展開。
- (4) 広報・普及活動の充実。
- (5) 国際理解・国際協力・国際交流活動諸団体との協力関係の開拓。

これらの方策の実現にあたっては、全会員の協力が必要であることはいうまでもありません。とくに、維持会員の獲得に對しては、理事のかたがたの、会員数の増進については全会員のご尽力をお願いしたいと思います。おのおの一人の会員が、それぞれ「新しい一人の会員を」獲得することをまず目標に、地について活動を展開しようではありませんか。

近年における広島県・広島市での民間ユネスコ活動の盛りあがり、全国から注目されています。この期待にこたえるべく、わが協会の五十一年度における発展を重ねて希望する次第です

(広島大学教授)







# 反響呼んだ原爆講座

## 青年部活動方針見出す

松岡盛人

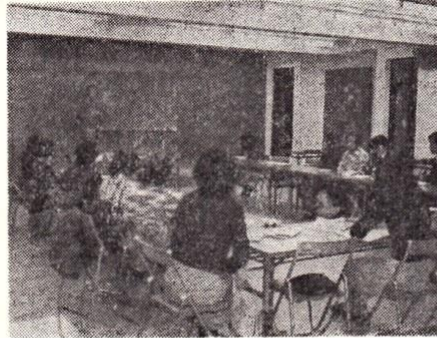
昨年二月から三月にかけて開いた六回にわたる「広島を知る」講座は、われわれ青年部メンバーに、今後の活動への指針を与えてくれたが、中でも「原爆」をテーマとした小倉馨広島市渉外課長のお話しは、興味深いものであった。

それまで無関心であった原爆問題に対して大きな関心を寄せるようになったのは、私ひとりではなかったと思う。青年部としても、被爆三十周年という記念すべき年に、どうしてこの問題を飛びこえて「ユネスコ」を論じようか、ということになった。

そこで、五十年活動計画の中に、原爆問題プロジェクトを設け、原爆投下の背景などについて、種々の資料をもとに、月一回の学習会を開いた。今回のユネスコ青年講座——「原爆を考える」——は、そうした下地のもとに、これまでのまとめというよりも、むしろ、この講座を契機に、青年部としての方向性を見出すべきもので

あり、個人としても、戦争・原爆・核というこれからの平和問題を考える大きな起爆剤になれば、という願いをこめて開いたものである。

### 原爆講座を熱心に聞く青年たち



日程・講師は、別表のとおりだが、それぞれ異なった立場から角度を変えて問題を鋭く捉えた講師のお話しは、われわれにとって大変意義あるものであり、その収穫は予想をはるかに上回るものであった。毎回二十名をこえる出席を得て、最終回の「われわれは何をなすべきか」

月日	テーマ	講師
1月22日	「原爆の歴史と運動」	広島ユネスコ協会 理事 高橋昭博氏
1月29日	同上	同上
2月5日	「世界の平和とヒロシマ」	ワールド・フレンズセンター 理事 原田東岷氏
2月19日	「被爆者の声」	広島修道大学 助教授 鹿子木幹雄氏

という討論会には、鹿子木先生の助言もいただいて、熱っぽい論議の中に青年部として今後とも積極的に原爆問題に取り組んでいく方針を確認するなど、五十一年度の青年部活動に明るい材料を残して幕を閉じた。

今回の講座は、テレビ、新聞などにも報道され、その反響は大きく、あわせてユネスコ運動普及の一助ともなったと思う。

五十一年度の青年部活動は、人の心の中に平和のとりでを……というユネスコ憲章前文を尊重し、いっぽうでは原爆の体験を継承しながら、原爆講座映画会、展示会などをおしてともすればさけて通りがちなる原爆問題や平和問題にも目を向けるよう広く若者の心に喚起を促したい。

たとえ、無力に等しくとも、この地から戦争と核の絶滅を願いつつ。

(青年部長)

## 展示会・研修会など活発に

### 50年度広島ユネスコ協会活動報告



世界の児童画を楽しむ子どもたち  
世界児童画展から

永井滋郎会長渡米◇九月青年部、ユネスコ世界児童画・写真展開催(中央図書館展示ホール)

- ◇五十年六月第三十一回日本ユネスコ活動全国大会(因島市)へ会員二十名派遣◇七月例会・全国大会報告会(中央図書館セミナー室)◇同日米教育文化交流会議国際理解教育分科会議へ出席並びに合衆国視察旅行のため、
- ◇同◇ヒロシマ国際アマチュア映画祭入賞作品鑑賞会開催(中国放送・中国小型映画連盟と共催、県立美術館講堂)◇十月中国ブロックユネスコ協会研究大会へ内海顧問、山崎常任理事出席◇十一月第十二回日本青年ユネスコ全国大会へ青年部守本副部長派遣◇同◇例会・永井会長帰朝報告「最近のアメリカの社会と教育」(中央図書館セミナー室)◇同◇会報「ヒロシマ・ユネスコ」創刊号発行◇同◇文部省主催・ユネスコ活動指導者海外視察団員として太鼓矢晋理事派遣◇十二月「国際理解に関する研究協議会」(文部省・県教委・県ユ協共催広島ユネスコ協会主管、祇園公民館)へ会員二十名出席◇同◇アジア青少年交流日本団員として山根繁徳会員を派遣(日ユ協連主催)
- ◇五十一年一月青年部、公開講座「原爆を考える」開催(青少年センター)◇二月ユネスコ新春放談会開催(キング・パブ・ヒロシマ)◇文部省主催「五十年国際理解・国際交流活動指導者全国研究会」へ信井副会長出席◇三月ユネスコ青年セミナー開催(三滝町・ライオンズ山荘)◇同◇会報「ヒロシマ・ユネスコ」第二号発行。





先日、担当であったユネスコ青年

講座「原爆を考える」を何とか無事に終えることができた。生まれてこのかた、ずっと広島に住み、8・6には必ず家族とともに慰霊碑に手を合わせ



原爆 8 ミリ映画 を八月に公開

広島エイトクラブ(松原博臣会長)広島ユネスコ協会の副会長(長でもある)と広島ユネスコ協

会は、このほど、ことしの原爆記念日の前に、原爆に関する8ミリ映画を広く一般市民に公開することを決定した。

とは、個人的にも大変有意義であったと思います。

ところで、講座をつうじて思ったのですが、ユネスコという

平和を積極的に考えよう

今村 信 昭

人との交流が先行してしまします。しかし、よく考えてみると、そういった事柄がどうして

国際交流は大変重要、かつ必要なことですが、それ以前に、戦争・平和について積極的に考えてみることはもっと大切なことではないでしょうか。

あるといえるのでしょうか。われわれの求めるものが、永久のものであり、果てしないものである以上、常に足もとを見定め

場所、くわしい日程などは未定だが、是非鑑賞してもらいたいものは間違いなく、反響を呼ぶことは間違いない。乞う、ご期待、というところか。

五十一年度県連活動の重点決まる

広島・因島・府中・尾道・福山の五協会を構成団体とする広島ユネスコ連絡協議会は、昭和

五十年年度には、第三十一回日本ユネスコ運動全国大会(因島大会)の受け入れに全力をあげ、また、十二月上旬に開催された「国際理解に関する研究協議会」の主催団体となり、さらに、県

内他市へのユネスコ協会設立のよびかけを行った。

- 昭和五十一年度には、①現存五協会の組織および活動の強化 ②第三十二回日本ユネスコ運動全国大会(和歌山大会)への協力 ③県内他市におけるユネスコ協会設立への働きかけ ④補助金の確保・増額などによる財政的基盤の確立 ⑤広報・普及活動の拡充の五重点に県連活動の重点をおく予定。

ユネスコ研究会 信井副会長出席

信井正行副会長は、去る二月四日から三日間、東京で開かれたユネスコ活動研究会(文部省主催)に出席した。

(青年部)

また、ある県の出席者から、海外旅行者に対して発行される旅券を交付する際に、事前研修を行なうなどして、国際理解をさらに深めるようルール化してはどうか、というユニークな提案もなされた。

「全国的にみて、ユネスコ活動はまだまだこれからだ」とは

同副会長の話だが、われわれは今後、行政の強力な援助を仰ぎながら、ユネスコ活動を充実させていかなければならないことは当然である。

ユネスコの輪を広げる運動にお力添えを

ユネスコ民間運動に関心をもちのかた、新しく入会をご希望されるかたにユネスコのリーフレット、協会規約、入会申込書などをお送りします。ユネスコの輪をひろげる運動にあなたの力が必要ですから、友人のなかにそういったかたがあれば、事務局までお申しつけください。